

我が家にサクラソウがやって来た

10年前、元々深い森だった場所に軽井沢別荘が完成しました。その頃の私は山野草に全く関心がなく、単に樹に囲まれた暮らしを楽しんでいました。ある春の日、ご近所の方が「この土地には絶対に合うから」と、庭にサクラソウを沢山植えてくださいました。ワサビが自生する湿潤な土地をサクラソウは気に入ってくれたのか、毎年増えてくれるのが楽しみになりました。サクラソウは私が山野草に興味を持つようになったきっかけです。

[カトラーめぐみ]

サクラソウとわたし



自然とは

軽井沢に咲く可憐な花々、豊かな自然と共に生きる喜び、次の世代に誰もがこの感動を味わえるようにしたい。園芸種としても江戸時代から愛されたサクラソウ。野生のサクラソウは将来どうなるでしょうか。サクラソウの本当の姿を知ること、**「自然」と幸せに暮らすにはどうすれば良いのか**を考えて行きたい。

[伊藤良則]

サクラソウとの出会い

7年前軽井沢に移住。出会いは「軽井沢町植物園」、町花ということを知る。そして離山の頂上近くの窪地にサクラソウの群落が目前に広がっているのをみつけた！うちの庭でも咲いていたらと北軽井沢のイベントで苗を購入、庭に植えた。昨年「サクラソウ会議」に入会、同じ花でも遺伝子が色々あることを知った。元々生えていなかった土地に植えてよかったのだろうか？今、自責の念に駆られている。

[阪本佐和子]

守りたい野の花サクラソウ

サクラソウとの出会いは50年前父がいただいた株を東京の自宅に植えてからだ。3月モフモフした小さな葉が土から顔を出すと春がやってくる。江戸時代には愛好者も増え「雛壇」に並べるディスプレイが定着したと聞く。10年ほど前軽井沢に別荘を持った後、「町花」がサクラソウである事や盗掘・開発などにより減少などの悲しい現実を知り、少しでも守ってゆく力になりたいと考えている。

[伊藤恵子]

掘り取られてしまったサクラソウ

1999年の春、電話があり「サクラソウが盗掘されるのに業を煮やした所有者が、欲しい人に全部上げてしまうと言っている。いいの？」と。たしかめに自生地に行ってみた。木漏れ日の中に、そこかしこにサクラソウが咲いている平和な谷間だった。数日後、再訪した。サクラソウの場所は、10ヶ所以上の黒々とした穴に変わってしまっていた。ショックだった。小1週間食欲がなかった。気を取り直して、サクラソウの勉強を始めた。

20世紀最後の年、『サクラソウの目』が本屋に届いたと聞いた。「変な名前ね。」注文から小1ヶ月も経って本の名前も忘れていた。でも読み始めると、グングン引き込まれていった。サクラソウの花がタネをつけるのにはトラマルハナバチが必要、ハチの家族が秋まで元気で暮らせるように他の山野草が咲き続けないと。「生物多様性」という言葉を知る。未知の世界への探検家になったような気がした。

[今城治子]

サクラソウとわたし

サクラソウが描かれた木製画が我が家にあります。もう40年も前になるでしょうか、東北への家族旅行で、母が土産として求めたものです。ただきれいということで買い、壁に懸け飾って置きました。この地に来て初めて本物のサクラソウにお目にかかり、この木製画が私達を軽井沢に呼び寄せてくれたのではないかと。毎年庭先で咲くサクラソウを見るたびに、不思議な縁を感じるのです。

[一色達郎]

軽井沢に眠る サクラソウを探そう!



軽井沢のサクラソウは「町花」として広く親しまれていますが、今ではサクラソウが自生する場所は限られています。このプロジェクトは皆さんのお家、その周囲にサクラソウが有るのか、無いのかを調査します。もし、サクラソウが見つからなかった場合でも土の中に「種」が残っていて、日当たりの良い環境にすると、再びサクラソウが顔を出してくることがあります。あなたの近くにお宝が潜んでいるかも知れません。皆さん、一緒に探してみませんか。軽井沢の多様な自然の保全にご協力をお願いします。

サクラソウ調査キャンペーン動画



1分



1分

■参加するには

この趣旨に賛同して頂ける方はどなたでも参加できますが、特に、軽井沢町に居住される方、または軽井沢町の別荘を所有者される方にご協力をお願いします。

■サクラソウ調査の期間

5月1日から5月31日まで。

■調査する場所

軽井沢町内ならば自由ですが、以下のいずれか

- ① 自宅の庭とその周囲
- ② 自分が所有する別荘の庭とその周囲
- ③ 自分が所有する別荘の共有地
- ④ 公園などの公共地の調査をお願いします。

他人の私有地はプライバシー保護のため調査は行わないでください。

■調査する内容は

- ・注目する地点のおよそ半径20m範囲内を調査してください。調査する地点の数は可能な範囲内で構いません。
- ・観察内容は
 - ① 調査した位置情報
 - ② サクラソウの有無
 - ③ 観察したサクラソウの写真
 - ④ 調査した日数
 - ⑤ 開花株数
 - ⑥ サクラソウの由来
 - ⑦ 調査地の所有者
 - ⑧ 調査した土地の日当たり、などを観察記録してください。
- ・サクラソウがなかった場合も、その情報は重要です。およそ半径20m範囲内の調査地にサクラソウが無いことを確認してください。

■調査する方法は

スマートフォンの無料アプリを使う方法と紙の記録用紙を使う方法があります。

詳細は軽井沢サクラソウ会議ホームページ

https://sakuraso.org/shiraberu/sks_chou-sa-2/をご覧ください。

[伊藤良則]

調査説明動画



19分

連絡先・調査結果送付先／軽井沢サクラソウ会議事務局 info@sakuraso.org

軽井沢町内のアレチウリの分布が広がっている。近年の傾向として、思いもよらぬ場所に忽然と出現するといった感じがある。幹線道路沿いや建設工事現場付近に発芽している状況から、工事車両や重機などによって町外から種子が運び込まれている可能性が高いと思われるが、原因ははっきりしない。

対応策としては、早期発見駆除がとりあえず有効な方法と考えられる。「長野県アレチウリ駆除」と検索すると、詳しい情報が掲載されているのでご参照いただきたい。

県が駆除強化月間とする6月頃の生育状況は、軽井沢でも20～30センチ程度と容易に抜き取りが可能なので、まずはより多くの皆さんに関心をもっていただき情報提供をお願いしたいと考えている。

【情報提供先】

軽井沢サクラソウ会議
info@sakurasou.org

軽井沢町環境課自然保護対策係
TEL.0267-45-8556
shizen@town.karuizawa.nagano.jp



アレチウリと花 スズメバチに要注意！

アレチウリ分布図



田植は農家の一大イベントで家族やマケ（同族）エエコ（結力をかすこと）賑やかでした。朝早くから草取りつらかったです。手がかじかむので時々土手で薪を燃やし火にあたらないと出来ません。半日位取り、朝食。苗を背負って田んぼに田の両側にシャクリッポ（畝間を決める尺棒）合わせて風糸を張る。人々は糸に沿って一列に並んで、蟹の横這いのように横に移動。糸を中心に三つを植える。いそいで植えて糸を張る。アイサ（間）腰を伸ばしたが田機の入る少し前は糸を三本四本と張るので、腰を上げるのが無く苦勞した。

十時、田植の楽しみは、コジハン（間食）だ。大土手でむしろの上で、大きなおむすび、黄粉、梅、ゴマ（胡麻）最高でした。十二時、中食に上がり、午後の苗取り。四時頃、田んぼに出かけることもある故、夕方暗くなり始めると古老が「ぞうりを腰にぶらさげろ」とさけびました。自分のぞうりが暗くなると分からなくなるので？

私の家でも三戸とよくエエツコしていましたが、面積が多いので、外の家が終わってから残

り田植しました。何としても女性は大変です。田植しながら大勢の人の食事の用意もするので。政府の減反政治が始まると稲作を中止する家が多く、エエツコもなくなり、それと同時に田植え機の時代となりました。現在手で田植が残っているのは、あちこちの棚田です。珍しいので保存しようという会などができ残っています。子供たちの学習の事にもつかわれております。

全国、圃場整備がほとんど出て来ているので田植え機も乗用が主力で、四・八条植えと大型化しています。戦後農業の機械化が一番進んだでしょう。昔のよ



うに鋤一つでは、農業はできません。農家の皆さん、がんばりましょう。

昔は田植は六月の初めから十日頃でした。中軽あたりの家では、群馬県で育苗して、苗を運んだりしました。当町、古宿の萩原豊次さんの油紙の折衷苗代が出来るまで、育苗は寒冷なので苦勞しました。農家にとって一大事業なので、六月末には公的に三日間、農休みをしました。温泉に行ったり、当集落はよく北軽のレンゲツツジを見に行ったりです。菅平に「ワラビ」採りなど、なつかしいです。田耕し代掻き、田植と水田の仕事は畑と異なり、雨が降ってもするので、ほんとうにつかれる。終わるとほっとするのわかります。

各戸で少しでも稲作をしていた時代とちがい、農家の子供でも、稲で米ができるのを知らない人が出る時代となり、さみしいです。米の国日本も何か終わりになる様な気がします。考えすぎでしょうか。

佐藤輝夫さんは、春の訪れを待たずに、大好きだった浅間山の上空に旅立たれましたが、輝夫さんの思いを、これから連載させていただきます。

事務局から

今年のサクラソウ調査は、会員の尽力で、スマホで写真撮影し位置情報を記録することが出来るシステムに切り替えられた。前回調査の2020年では出来なかったことで、本当に素晴らしい進歩と思う。

一方で、やはり現場に行き、自分の目で見て、

自然を体感することのすばらしさを忘れないようにしたい。現場でデータを取り、知識を深めながら、一人でも多くの人が軽井沢の自然の大切さ、居住地域の自然の大切さに気付いてくれることが、一番大切な資産になると思う。